

「第2期松山市子ども・子育て支援事業計画」の令和6年度実施状況について

<教育・保育部会>

事業名称等	意見等
放課後児童健全育成事業（児童クラブ運営事業）	民間の児童クラブに補助が開始されたことは、評価できます。一方で、光熱費の高騰等は、公設の児童クラブの運営に大きな影響を与えているようです。公設の場合、利用者負担金の値上げも厳しいため、公設にも何らかの補助を検討する必要があるのではないのでしょうか。また、熱中症予防のため、外遊びができない状況です。市として、学校の体育館を優先的に使えるようにするなど、こどもたちの遊びスペース確保に努めて頂きたいです。支援員の質の確保も課題です。こどもに関わる全てのスタッフが、こどもの最善の利益の実現を心に置いて対応できるようになっていただきたいと思います。
地域子育て支援拠点事業	初めて出産・子育てをする親にとって不安や悩みはつきませんが、相談場所が自宅のすぐそばにあるのは、ちょっと行ってみようかという気持ちになります。なので、33施設に拡充できたのはありがたいことだと思います。子育てに新鮮な気持ちで取り組もうとするこの時期に、働きながらどうこどもに関わっていくとよいのか理解できると、今後のよりよい子育てにつながります。登園させない親が増えてきているようですが、子育てに大切なことを学んでほしいと思います。
病児・病後児保育事業	今後は、あわせて、施設ごとの稼働率をお示して頂くとよいかと思います。
多様な事業者の参入促進・能力活用事業	個別対応が必要なお子さんが増えているとお聞きします。インクルーシブ保育実現のために、加配だけでなく、特別な支援が必要なこどもへの対応について、的確な助言ができる専門職が定期的に巡回することも検討していただきたいと思います。同様のニーズが、児童クラブにもあると聞き及んでいます。

「第2期松山市子ども・子育て支援事業計画」の令和6年度実施状況について

＜地域子育て部会＞

事業名称等	意見等
子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ事業）	事業に里親さんが加わり、利用者側のニーズに応じたマッチング等、柔軟な対応ができる現状は、利用者さんにとって安心でき、大変喜ばしいことだと思います。 利用ニーズが高く、計画数を実績数が上回っているため、施設や里親さん側のご負担を心配しますが、その点はいかがでしょうか。 万一、業務上ご無理がかかっているれば、施設や里親さんは大変なご苦勞をされていらっしゃることでしょうし、そのことは利用者さんのご不安等にもつながりかねません。現場の職員の方や利用者さん、特に利用されるこどもさんの声を聞いてあげてください。 「保護者の育児疲れやリフレッシュ等精神面の負担軽減を求める理由での利用が増えている」との報告ですが、事業充実の必要性に加え、保護者の精神面の負担となる様々な要因や原因の改善を進める施策等の検討や実施が重要であるとも思っています。利用理由の分析を詳細に行い、子育て支援の分野だけではなく、横断的な視点で他分野からの介入により、市全体で施策等を検討し実行することが必要ではないでしょうか。
子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ事業）	令和6年度からは、委託先に占める里親の委託件数が表示されており、家庭養護推進の観点からも市としての意識の高さを感じることができた。こどもの最善の福祉という視点に立てば、本事業を必要とする児童や家庭の生活動線に近い地域にて、本事業を提供することが次なる課題となる。そのためには、市内の地域ごとの委託先の充実が求められる。その意味で、実績数の確保などの量の充足とともに、次の計画では、児童福祉施設と里親の居住地域の市内のバランスなども考慮した里親の確保等の質の評価を検討していく必要がある。
乳児家庭全戸訪問事業 （こんにちは赤ちゃん訪問）	こども家庭センターの大変重要な事業の一つであると認識しています。令和6年度から委託先が愛媛助産師会となり、専門職である助産師さんがご家族のご相談等に応じていらっしゃることは、育児をされるご家族にとって大変心強いことだと思います。助産師さんの丁寧な対応や適切な情報提供等が、ご家族の育児や今後の親子関係等に大きく影響するでしょう。これからも事業の充実をお図りいただくようお願いします。 その上、継続支援が必要であると思われるご家族に対しては、地区保健師やこども相談課等が介入する支援システムが構築されていることは、市として誇れることだと思います。国も提言していますが、こども家庭センターは、こどもに関する相談や支援等においての市の中核機関です。松山市のこどもに関する相談や支援等は、すべてこども家庭センターが担うことができるよう、この訪問事業を含む入口相談や早期支援等の充実、重層的なシステムの効果的な運用が今後益々図られることを願っています。

「第2期松山市子ども・子育て支援事業計画」の令和6年度実施状況について

＜地域子育て部会＞

事業名称等	意見等
乳児家庭全戸訪問事業	産後の訪問だけでなく産前から継続する支援（伴走型）になったことは良いことだと思う。
乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん訪問）	R6年度から、愛媛助産師会への委託事業に変更になり、専門性を活かしたケア体制になったことは評価できる。本事業は虐待予防の観点から他の事業以上に100%の実施率が必須と考えるため、出生数に対する実績の維持率を今後も期待したい。
養育支援訪問事業その他要支援児童、要保護児童等の支援に資する事業	令和6年度の計画と実績の比較よりも、実績値が令和5年度より令和6年度が減少していることに注目しています。この要因をどのように捉えてよいのでしょうか。今後の状況に注目したいと思っています。 こども相談課の職員の皆様には、いつも助けていただき、本当に感謝しております。業務上連携を図らせていただいておりますので、業務の大変さや多忙さは理解しているつもりです。重要な位置付けだけに市として、職員の増員やメンタルケア等の必要な策を講じる必要があると思っています。 障がいのあるお子さんを持つ保護者の方は、子育てに不安を抱え、養育支援を必要としている割合が高いと言われています。また、障がいのあるこどもさんは、虐待やいじめ等といった社会問題に繋がるリスクが高いとも言われています。気づきの段階の保護者の方や早い段階でのこどもさんへの介入は、母子保健や子育て支援に携わる機関や職員の方が、まず入口となります。今後も丁寧なご支援をよろしくお願いします。

「第2期松山市子ども・子育て支援事業計画」の令和6年度実施状況について

＜地域子育て部会＞

事業名称等	意見等
養育支援訪問事業その他要支援児童、要保護児童等の支援に資する事業	令和5年度に比して、実績値が減少している理由の分析が必要と考える。実績減少の理由が、サービス対象人口の減少、他の事業の成果等の＋の要因による減少であれば良いが、慎重に検討しておく必要がある。
子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）	地域福祉という観点から、この事業を重要視しています。いつも提供会員数、両方会員数に注目しています。昨年度との比較で、提供会員数が増加していることは素晴らしいことだと思います。 他事業の拡張や内容の充実等により、この事業の実績値が変動することは当然のことであり、市全体のこどもや子育て支援の充実の視点で考えれば、この事業については良い方向に進んでいるとも考えることができます。
子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）	本事業の実績は令和2年度から経年で低い状況が続いている。毎月2.5時間の利用料金の助成、児童扶養手当受給者への助成、多胎児世帯への助成対象などの事業利用者の促進対策は評価できる。しかし、利用助成による利用促進の効果が示されていないため、本事業の利用促進対策の意義と効果ならびに利用ニーズと提供できる内容の合致性の確認の検証など、本質的な検討が必要である。

「第2期松山市子ども・子育て支援事業計画」の令和6年度実施状況について

＜地域子育て部会＞

事業名称等	意見等
子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）	量の見込みと利用実績値の差が大きいため、どうしても評価が下がる。令和7年度以降の量の見込み部分の修正はされているのか気になった。
妊婦一般健康診査事業	相談業務に当たっていますので、この段階からの子育て支援の重要性、必要性等を常に感じています。

「第2期松山市子ども・子育て支援事業計画」の令和6年度実施状況について

自由記載欄(第4章部分に関する事項を含む)

＜教育・保育部会＞

意見等

様々な魅力的な子ども・子育て支援事業が展開されており、高く評価します。
ただ、市民向けの事業は、開催場所が市の中心に偏っていないか、交通の不便な場所でも参加しやすいかも気になります。郊外や交通の不便な地域の人も利用できるように、巡回型や出張型、持ち回り開催など、もう少し柔軟な方法があるといいなと思いました。
また、事業も多岐にわたるため、必要としている家庭に情報が確実に届くよう、対象者への案内を強化することも大切だと思いました。

市が子育ての支援のために尽力している様子がよく分かり、感謝しています。特に働く親にとって延長保育や一時預かりなどを希望どおりに受けられるのはありがたいことだと思います。（確保できている。）

「第2期松山市子ども・子育て支援事業計画」の令和6年度実施状況について

自由記載欄(第4章部分に関する事項を含む)

＜地域子育て部会＞

意見等

障がいや特性のある子どもにとって安心できる優しい社会は、全ての人にとって安心できる優しい社会であり、私たちの目指す社会の姿だと思います。各々の事業等を進めるに当たり、すべての子どもが対象であることを忘れず、誰一人取り残すことのない事業や子ども施策の推進をお願いします。

様々な立場の方が参加する子ども・子育て会議で、計画に対する意見や事業の進捗状況の評価等の他に、各々が考える子ども施策に対する課題や要望、施策の提案等を協議する機会を作っていただければありがたいです。特に、一般公募の委員さんのお話が伺いたいと思います。

「松山市こども計画」の策定により、「こどもまんなか社会」の実現に向けた取り組みが明文化され、松山市もスタートラインに立ちました。こどもや若者の意見に耳を傾けましょう。こどもや若者の思いを実現しましょう。「誰もが自分らしく輝くまつやま」をこどもや若者とともに築き上げていきましょう。

こども施策において、今後益々「こども家庭センター」の業務や役割が重要視されると思います。こども家庭センターを中核としたすべてのこどもを誰一人として取り残さない松山市の相談支援体制の確立を願います。

「にこっと」について
子育て短期支援事業（ショートステイ・トワイライトステイ事業）で、料金だけでなく時間帯も書いてあれば問い合わせ前に利用を検討しやすくていいと思う。
「産後ケア」のページにはあったので。また、サイトだけでなくアプリ化はできないか。

「第2期松山市子ども・子育て支援事業計画」の令和6年度実施状況について

自由記載欄(第4章部分に関する事項を含む)

＜地域子育て部会＞

意見等

「施策の展開」部分について

松山市の支援の手厚さに感心した。が、一方で、本当に届いているのかと心配にもなった。母子手帳交付時、乳児家庭全戸訪問事業対象外の月齢以降の転入者など、こぼれ落ちている家庭や子ども、母親、若者などをどうすくい上げるかも課題だと思う。

他の委員からの意見があったように、量のみでなく質についての評価ができる仕組みがあれば良いと思う。

こどもファシリテーターについて

今年度は養成に力を入れていく方針であるとの回答でしたが、同時に「こどもの意見を聴く場」をどのようにするのかということも含め、具体的な活用の方向性(目標)も考えてほしい。